

上越教育大学の場合

上越教育大学学校教育実践研究センター 釜田 聡

I はじめに

平成19年春、日本学校教育学会第22回研究大会事務局から「第22回大会・公開シンポジウムでの報告をお願いしたい。テーマは『教員研修における大学の役割』です」と要請があった。

私には荷が重いと感じたことやテーマが今日的な重要な課題を含んでいること、本学が教職大学院の設置申請をしている微妙な時期でもあったことから、「日頃、私自身や学校教育実践研究センター（以下、センター）が実践していることであれば報告可能です」と、大会事務局の了解を得て、当日のシンポジウムを迎えた。

以下は、当日のシンポジウムの発表概要である⁽¹⁾。

II シンポジウムの課題について

大会事務局から、次の二つの課題が提示された。

- 1 大学が担ってこそはじめて可能になる教員研修の在り方を探る。
- 2 大学は現在の教員研修の在り方をどのようにとらえているのか、研修の場で何を身につけるべきなのかを明確にする。

最初に、この二つの課題についての私の立場について説明する。

1の課題について、私は理論と実践、大学と教育現場⁽²⁾や教育委員会を明確に区分する立場をとらない。逆に可能な限り連携を図るべきであり、実践や教育現場を中核にした教員研修を充実すべきだと考える。

その理由は、次の2点である。

1点目は、学校教育研究において、教育現場での実践から著しく乖離した教育理論の存在意義について問題意識をもっているからである。少なくとも公的な教員研修の場では無用のものとする。

2点目は、教育現場における実践にこそ、優れた理論が埋没していると考えからである。教育現場では、日々、教員が意識的にあるいは無意識的に、目の前の子どもたちのために、最善の方策を講じている。教育現場は、歴史や伝統にはぐくまれ、実践を通じて磨かれた価値ある実践知の宝庫になっている。

このような教育現場で、日々、フィルターにかけられ生き残っている実践的な理論をくみ取ることが重要だと考えるからである。

以上の理由から、あえて「大学が担ってこそはじめて可能になる」という枠組みを設定することは、教育系の大学の存在意義を矮小化するものとする。「教育現場こそ豊かな理論の宝庫である」という視座からは、大学と教育現場、教育委員会の協働によって創造される教員研修の充実が求められている。

2の課題については、次のようにとらえる。

平成18年7月11日に公表された中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」では、「養成段階から、その後の教職生活までを一つの過程として捉え、その全体を通じて、教員として必要な資質能力を確実に保持する」と、教員の「質保証」の視点が明確に打ち出されている。これらは、学部段階における「教職実践演習」(新設・必修予定)での到達目標の設定、教育実習の厳格化、教職大学院の創設、さらには教員の免許更新制の導入に明確に表れている。

こうした動向は、現在の教育の危機的状況を打破するため、あるいは教員への揺るぎない信頼を回復するための並々ならぬ決意と受け止めるべきであろう。

Ⅱ 「教員研修」を取り巻く現状と課題

中央教育審議会答申(平成18年7月11日)

大学入試 一 養成段階
適性 質的保証

採用段階
採用試験 初任者研修

現職研修
免許更新制(質的保証) 得意分野

他方、こうした教員研修の在り方（免許更新制を含む）について、「教員や学校の内発的な研修意欲を信頼していないのではないか」「教員の多忙化に拍車をかけるのではないか」という批判や、免許更新制の制度・運用面に関する反対意見は多数表明されている。しかし、教職大学院や免許更新制については、大学が直接かかわることが明らかである。そこで、教職大学院や免許更新制を教員研修の重要な場の一つとしてとらえ、その見通しについて真剣に検討する必要がある。

Ⅲ 上越教育大学の取り組み

上越教育大学は教員養成と現職教員の研鑽を支援する新構想大学として、昭和53年に開学、昭和56年に最初の学部生を迎えた。現在、教員養成系の大学は内と外から揺さぶられ、まさに大学の存在意義が問われている。とりわけ、上越教育大学のような地方の教育単科大学では、一層深刻な問題として受け止めざるを得ない。このような環境のなか、本学の取り組みのなかで、センターがかかわっている五つの取り組みについて紹介し、そこから本シンポジウムの課題に迫る。

(1) 上越教育大学の臨床的研究や学校支援

本学は、実践的な指導力をもった教員の育成をめざしている。臨床的教育研究を重視し、大学と教育現場との距離をできる限り近づけようと努力している。また、積極的に学校支援に出向き、地域の各学校の校内研修に参画することで、教員の資質能力の向上に寄与している。

(2) 教職大学院の設置申請

理論的な考察を学校教育の現場のなかで活かしながら教育実践を展開、高度化する活動と、それに基づく教育を主たる目的とする教職大学院の設置を申請した⁽³⁾。

(3) 特任教員（新潟県教育委員会から任期付きの教員）の採用

センターでは、平成17年4月から、新潟県教育委員会から任期付き教員（特任准教授）3名受け入れている⁽⁴⁾。本学教員と連携し、学部授業でのジョイント授業⁽⁵⁾や学生指導、地域の各学校での校内研修等に貢献している。

(4) 「上越教育大学（上越市・妙高市連携）スタンダード⁽⁶⁾」の作成

上越教育大学では、学部学生の資質能力の保証から、大学のスタンダードを上越市と妙高市と連携し作成する予定である⁽⁷⁾。教員として必要とされる資質能力を学部教育が担うべき部分と新採用研修で担う部分、10年目研修等で培うべきもの、その他生涯を通じて磨き続ける必要がある資質能力と分類整理している段階である。

(5) 教員研修評価・改善システム開発事業（平成19年採択）

（『新潟県立教育センターにおける Check-Act システムの研究開発』）

本年度、新潟県の教員研修の評価システムを開発する予定である。具体的には、新潟県立教育センターが中心となって実施している教員研修プログラムについて、質的・量的の両面から検討し、新しい評価・改善システムを提案しようと努力しているところである。

以上が、センターの「教員研修」にかかわる取り組みである。

IV まとめ

最後に、本シンポジウムの二つの課題について言及し、本報告のまとめとする。

(1) 教員研修について

教員研修については、車にたとえると、「自動車のハンドルの遊び」がある教員研修が必要である。具体的には、エンジン部分が「質保証」、ハンドル部分には遊びとして、「柔軟性と多様性」「選択幅の拡大」が求められる。つまり教員一人ひとりのライフステージや問題・関心に応じた教員研修プログラムの作成とそうした要望を把握する評価・改善システムの開発が喫緊の

課題である。また、今後の課題としては、免許更新制と従来の多様な研修^⑧との関係をどう整理するかが問われる。

(2) 大学の在り方

教育現場の教育課題は、複合的で重層的な要因を内包する。鋭角な切り口からの研究は必要であるが、ブレンドされた研究や知見も必要である。そのためには、「糊代」のある大学教員の役割が重要である。学術的な研究に没頭する教員、実践的・臨床的な研究に取り組む教員、一人ひとりが個性を発揮する必要がある。しかし、相互に糊代があってもよいと思う。また、こうしたアバウトな境界領域に着目することで、関連諸領域の研究者と実践者の協働研究や協働実践が創出される。このような視座からは、今後、設置が予定されている教職大学院への期待は大きい。教職大学院は、「教育現場」を磁場に、研究者と実務家教員、大学院生と実践者を結びつける場が用意されている（教育実習）。このように豊かなステージが整えられることによって、これまで誰もが見い出せなかった新しい形の「大学が担ってこそはじめて可能になる教員研修」が生成されると考える。

〈注〉

- (1) 本稿は、釜田がシンポジウム当日に発表した内容をもとに、一部加筆修正し再構成したものである。
- (2) ここでは、教育研究の対象となる大学を含めたすべての教育現場を意味する。
- (3) 平成19年12月3日、文部科学省から本学大学院学校教育研究科に、専門職学位（教職修士）課程教育実践高度化専攻の設置が認められた。アドミSSION・ポリシーは、次のとおりである。

「教育実践高度化専攻は、多種多様な実践例に学びながら、自らも教育実践を行うことを通して、刻々と変わる教育現場の状況を即時的・総合的に判断しながら、適切な学校運営の実現に向けた協働関係の構築や実践を総合的にデザインできる教員を養成することを目的とします。」
- (4) 平成20年4月からは、退職校長2名を特任教授として採用する予定である。
- (5) 大学教員と特任准教授が、授業のねらいや授業の内容・方法、評価について協議し、共通理解したうえで行う授業のこと（平成19年度は臨床教育課程

論を開講した)。

- (6) 平成17年度に採択された特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）「教職キャリア教育による実践的指導力の育成―分離方式の初等教育実習を中核として―」の事業の一つである。
- (7) 上越教育大学（上越・妙高地域連携）スタンダード：中央教育審議会が提示した「到達目標及び目標到達の確認指標例」の枠組みを参考にして、上越教育大学が上越市と妙高市連携し、本学のスタンダード（到達目標及び目標到達の確認指標例）の作成を目ざしている。
- (8) 多様な研修とは、大学院での再教育や公的な研修，民間団体が開催する研修など。